

講義名	公務員特別演習			授業形態	
担当教員	楠本 寛 / 河辺 有希生	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

【目的】
公務員特別演習は、公務員を目指す経済学部生を対象とする、1年後期(演習Ⅰ)から4年前期(演習Ⅳ)まで一貫したプログラムである。「究極のサービス業」とも呼ばれる公務員は、様々な分野で、多くの人々の暮らしを支えるやりがいのある大きな職業である。しかしながら、公務員試験は競争が激しく、この演習を聴講したからといって容易に合格できるものではない。また知識をただ暗記し、他者からの指示がなければ行動できない人材も求められてはいない。すなわち公務員になるには、自ら考え、仲間とともに正解のない問題に挑戦できる総合的な人間力が求められる(まさに本学が掲げる「ネオカバのひのひへこたれず」の精神をもった人材)。そこで本演習は、高いモチベーションを維持しながら試験対策を効果的に継続できるように、様々なヒントを段階的に与えることで、公務員を目指す諸君をサポートしていくものである。

【内容】
2年生前期の公務員特別演習Ⅰでは、次の目的意識のもとで授業を行う。
(1)自治体の組織や公務員の職務に関する基礎的・具体的な知識の修得
(2)目指す進路(希望職種)を定めるための情報や知識の修得、理解の深化
(3)公務員試験に対応できる知識やスキルの上昇

到達目標

1. 自治体(特に市町村)の組織や公務員の身分、職責、職務の内容について、具体的に理解できるようになる。
2. 自分自身が目指す職種を具体的にイメージし、それを達成するための課題を明確に意識できるようになる。
3. 公務員試験に臨み、難関を乗り越えていくためのモチベーションを高めることができるようになる。
4. とりわけ難しといわれる試験科目について、自身の対応能力を向上させることができるようになる。

提出課題

演習で学んだことを復習し、理解を深めることを目的とした課題を課す。
また、公務員を目指す進路や希望職種などに関するプレゼンテーション(授業時間内での発表)を求める。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

課題については、次の演習の際に適宜講評する。
プレゼンテーションについては、授業時間内に講評やアドバイスを行う。

評価の基準

レポート課題：40%、プレゼンテーション：40%、平常点(受講態度)：20%
合計100点満点で評価する。

履修にあたっての注意・助言他

・この演習は、真剣に公務員を目指す学生を対象とするものであり、理由なく遅刻・欠席しないこと。
・公務員試験は競争が激しく、本演習の学習のみで合格できるほど甘くはない。本演習はあくまでも公務員志望者のサポーターである。受講生諸君が独自に試験対策を練り、自習を重ねる必要があることは言うまでもない。
・市内の公務員試験対策講座(有料講座)等の受講、もしくは外部専門学校を受講(ダブルスクール)を強く推奨する。
・「基礎技能B」以外の関連する正課授業を、編入・履修することが望ましい。
(共通)法学入門、経済学入門、政治学、財政学、地域まちづくり概論、防災まちづくり論、業界研究(百貨行)
(行政職志望)民法A・B、憲法、政治学、財政学、行政学、地方行政論、地方財政論、経済数学、ミクロ経済学、マクロ経済学
(公安職志望)基礎技能A(数的処理)

公務員特別演習(Ⅰ～Ⅳ)は、1年後期(演習Ⅰ)から4年前期(演習Ⅳ)まで一貫したプログラムであるが、「公務員特別演習Ⅰ」(本演習・2年前期開講)から編入することも可能である。編入希望者は、1年後期に実施するガイダンスに必ず参加すること。

教科書

.公務員試験 現職人事が書いた「公務員になりたい人へ」の本(2025年度版)、	大賀 英徳	実務教育出版	1430	9784788977839
---	-------	--------	------	---------------

参考図書

その他

教科書に加え、講義、プリントを配付する。
外部講師による授業の際にも、別途教材やプリントが配付されることがある。

授業計画

1. ガイダンス(授業の概要説明)
2. 公務員試験の動向(合同クラス、ワークアカデミー)
3. 公務員という仕事(1)
4. 公務員という仕事(2)
5. 公務員という仕事(3)
6. 政治的処理の基礎(1)(合同クラス、ワークアカデミー)
7. 政治的処理の基礎(2)(合同クラス、ワークアカデミー)
8. 政治的処理の基礎(3)(合同クラス、ワークアカデミー)
9. 公務員という仕事(4)
10. 公務員の仕事の実際(1)(自治体職員)
11. 公務員の仕事の実際(2)(自治体職員)
12. 希望職種に関するプレゼンテーション(1)
13. 希望職種に関するプレゼンテーション(2)
14. 希望職種に関するプレゼンテーション(3)
15. 希望職種に関するプレゼンテーション(4)

公務員という仕事について(3-5回、9回)
公務員を目指すにあたり知っておきたい事項(地方自治体とは、地方自治体の組織と役割、地方自治体の仕事、公務員の身分・任用、公務員の職種、公務員の職務内容、公務員の待遇等)を予定
公務員の仕事の実際について(自治体職員の方による授業、10-11回)
(1)講師は、現職公務員の力に感謝していたく予定である。
(2)内容は、各自自治体の組織の構成、具体的な事務(自治体の仕事)の内容、公務員としての心構え、仕事のやり甲斐、成功事例/失敗事例、地域住民との関わりなど、実例や具体的なご経験を含めて講義いただく予定である。
上記のスケジュール、内容は変更の可能性がります。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

知識の修得など授業内容の理解のためには、教科書に基づき予習や授業内容の復習、課題への取り組みが必須である。
公務員試験への対応能力の向上については、学期初めに問わず、日常的なトレーニングの積み重ねが必要である。
これらを合わせ、少なくとも週4時間以上の準備学習、取り組みが必要と考えられる。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本演習は以下のディプロマ・ポリシーに関連する。
【流通科学大学の学生が卒業時に到達して身につけておくべき資質・能力】
(1)「ネオカバのひのひへこたれず」の精神をもった人材
(2)知識を知識に転換することができる。論理的思考力を持った人材
(3)創造力、新しい視点と豊かな発想を持った人材
(4)自主・自立の精神を持った人材
(5)仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材
(6)豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」となるための基礎能力

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

現役公務員の方との直接的な対話や、自身の抱負や志望する職種に関するプレゼンテーションを含む授業であり、質疑応答やディスカッションを実施する機会が多い。

実務経験の有無及び活用

地方自治体での実務経験あり(楠本) 具体例などを適宜授業の中で紹介する。

備考
